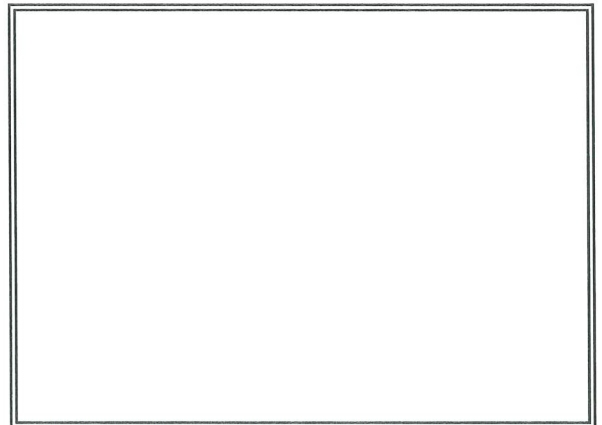


1. 2015 年度の総括

① 収支状況（表中の単位：千円）

| 決算見込み | | 予算比 (%) | 前年比 |
|--------|--------|---------|-----|
| 収入 | 73,463 | 93.7 | ↓ |
| 支出 | 64,708 | 100.0 | → |
| 経常収支差額 | 8,755 | 64.1 | ↓ |

評価：収入が 400 万ほど未達成で、収益も同様に減となる



② 職員配置と研修（職員数は 2016 年 1 月現在）

正職員 6 名(うち 1 名は製パン班にほぼ専従)、契約職員 1 名、パート職員 10 名(週 2～5 日)あり、作業班に 4～5 名、手づくり班に 4～6 名配置している。個別に支援の必要(マンツーマン対応)の利用者が一時期複数名おられる状況があり、職員の不足の日があった。行動障がい強い利用者が多いが、男性職員が常勤 2 名のみ状況から 4 月にパート男性職員が入り、介助面ではフォローできることが増えた。
中堅研修を職員が希望して受講。職員の支援や価値観を再認識するきっかけとなった。支援内容について先々の支援に必要な研修に参加している。他、法人研修に参加している。

③ 事業内容



総セン通所と合同で行っていたサークル活動を班単位での合同レクリエーションに変更し、より交流を深めやすくした。また、オガリ作業所全体として、3ヶ月に1回の誕生日会を各班でのとりくみとし、利用者ひとりひとりにスポットのあたるものを企画した。
作業班では作業の内容はほぼ変わらず、三栄水栓・マツキダイラからの下請けを行なっている。個別に対応が必要なメンバーや、作業物品を故意的に壊してしまうことが増え、マンツーマン対応・作業物品の置き場の移動(フロアから会議室)を行なった。
手づくり班では重度知的障がいのある利用者にとって取り組みやすい内容と考え、紙ねんどの活動を立体造形から平面の手指で貼り付けてできる作品づくりに変更したり、てづくりだより(日常の写真を切り貼りしたもの)を年に2回のの発刊から、毎月の発刊に変更し、通年の取り組みとして行なった。

④ 品質管理

職員の利用者の担当を前年度から変更せず、継続して担当できることで利用者・家族の状況を把握し、対応を深めることができた。また、作業所単位でお知らせ等こまめにお伝えすることができたり、ご本人の障がい状況に合わせた取り組みの変更にはご家族からは高評価をいただいている。
2016 年度に生活介護 2 班の再編成を行なう。職員で新 3 班の活動内容を検討・準備をしている。

2. 2016年度の計画

① 予算案のポイント

| 費目 | 予算(単位:千円) | 前年比 | 算出根拠・購入物品など |
|----|-----------|---|---|
| 収入 | 62,545 |  | 利用者的大幅減で収入も1000万円ほど落ちる |
| 支出 | 59,275 |  | 異動による新人置換・パート時数減により人件費節減されるも、収益は半分以下になる |

② 主課題

班の再編成に伴い、環境の変化による影響が利用者にあるとみられ、その対応が課題としてある。活動中での構造化により利用者にとってわかりやすく、ご本人の思いの表現がしやすい環境を目指す。また、軽作業の活動を大幅に縮小し、軽作業をCOCOROへの移行するための引継ぎ、作業ニーズのある利用者への作業の確保が必要となる。あらたな活動(レクリエーション・地域清掃・自主製品・チラシ折りと配布など)を利用者の状況に合わせた提供方法を考えていく。

COCOROへの移行予定利用者が9名あり、稼働率が下がることから新規利用者の受け入れをおこなう。2016年4月からは2名の新規受け入れが確定しており、他数名の利用希望相談を伺っている。

2016年度から旅行をオガリ作業所のみで行なっていくこととなり、日帰り旅行1回、1泊2日旅行を1回予定している。

③ 年間事業計画(予定)

| | | | |
|----|--------------------|-----|---------------------|
| 4月 | お花見 | 10月 | 稲刈り交流会・避難訓練 |
| 5月 | 田植え交流会・避難訓練 | 11月 | オガリンピック(運動会)・家族会 |
| 6月 | 春の班外出・家族会 | 12月 | クリスマス会・年末休日事業 |
| 7月 | バーベキュー・避難訓練・モニタリング | 1月 | 新年会・モニタリング |
| 8月 | 夏休み休日事業・モニタリング | 2月 | モニタリング・家族会・年度末三者懇談 |
| 9月 | 旅行・モニタリング | 3月 | 年度末三者懇談・振り返りスライドショー |

1. 2015 年度の総括

① 収支状況（表中の単位：千円）

| 決算見込み | | 予算比 (%) | 前年比 |
|--------|--------|---------|-----|
| 収入 | 25,532 | 98.0 | ⇨ |
| 支出 | 21,269 | 115.5 | ⇦ |
| 経常収支差額 | 4,263 | 55.9 | ⇩ |

評価：収入はほぼ予算内も、パート配置が大幅増となり収益はおよそ半分

② 職員配置と研修（職員数は 2016 年 1 月現在）

正職員 3 名(うち生活介護所属 1 名)パートスタッフ 6 名(うち生活介護所属 4 名は週1～2日の勤務)。日々の配置は清掃班 1～2 名、製パン班 2～4 名としている。
研修は製パンに関わる技術面、食品表示法などの実務面の研修に参加している。他、法人研修に参加。利用者に個別に必要な研修にも参加している。

③ 事業内容

製パン班の外販先を増やすことができ、単発での外販が継続的なものにつながることもあった。売り上げも上昇傾向にある。清掃班では、利用者が年齢・体力的に長時間の作業が難しくなってきたことから、清掃の契約を一部見直している(なごみデイサービスの夕方浴室清掃の終了)。それに代わる作業内容を検討している。清掃班利用者の中には企業実習にチャレンジされているかたがあり、就職支援も行なっている。

一方、利用者の不調も目立ち、製パン班では工房内で作業されない利用者が半数以上ある日もあったり、清掃班では大声をあげて仕事に入れなかったりが多い利用者があった。

③ 品質管理

職員体制が大きく変わらず、引継ぎもなされてきている。そのため、利用者個別の支援(文字で提示した支援ツールの活用やご本人の意思の聞き取り、ケース会議への参加など)もできている。
品質向上のアンケートで食事についての項目がご本人評価で平均 2.8 点と突出して低い結果となった。次年度アンケートをとるなどの対応をしていきたい。

2. 2016年度の計画

① 予算案のポイント

| 費目 | 予算(単位:千円) | 前年比 | 算出根拠・購入物品など |
|----|-----------|-----|-------------|
| 収入 | 26,570 | ⇨ | |
| 支出 | 20,143 | | |

② 主課題

2016年4月からの新卒利用者の受け入れがなかったほか、COCOROへの移行メンバー(1名)があるため、新規利用者の獲得を課題とする。また、清掃・製パン技術面での職員の引継ぎを行なう。清掃班では2015年度終了した仕事に変わる仕事の検討、実施。

製パン班では個別に利用者支援(視覚支援や構造化、生活面の支援)の必要性が高いかたの支援、外販先の選定、職員の技術面での引継ぎが課題となる。

アンケートの「食事」項目の点数の低さについて、就労継続支援B型の食事提供している利用者に1ヶ月のこんだての中から、「おいしかったもの」「おいしくなかったもの」を選んでいただくアンケートを実施し、食事サービスへ結果を伝えていく取り組みを行いたい。

③ 年間事業計画(予定)

| | | | |
|----|------------------|-----|--------------------|
| 4月 | お花見 | 10月 | 建国小出店・避難訓練・ハロウィン |
| 5月 | | 11月 | 旅行・オガリンピック |
| 6月 | 春の班外出・避難訓練・家族会 | 12月 | クリスマス・クリスマス会 |
| 7月 | バーベキュー・粉浜商店街夜店祭り | 1月 | ボーナス外出 |
| 8月 | 帝塚山芋忠販売・モニタリング | 2月 | モニタリング・年度末三者懇談・家族会 |
| 9月 | 旅行・モニタリング | 3月 | モニタリング・年度末三者懇談 |

1. 2015 年度の総括

① 収支状況（表中の単位：千円）

| 決算見込み | | 予算比 (%) | 前年比 |
|--------|--------|---------|-----|
| 収入 | 81,534 | 99.1 | ↘ |
| 支出 | 65,115 | 94.9 | ↗ |
| 経常収支差額 | 16,690 | 119.8 | ↗ |

評価：年度初めは利用者減のため減収であったが夏頃より利用者増で復調傾向となっている。



② 職員配置と研修（職員数は 2016 年 1 月現在）

- 1 月現在、常勤職員 7 名、契約職員 2 名、パートスタッフ 13 名（看護師 3 名含む）
- 2016 年 1 月に嘱託職員 1 名退職。 ● 研修→アイサポート（行動障がい研修）、ヘルプマン研修、すみすみ

③ 事業内容

今年度は従来の自主製品、調理、レクリエーション、外出、貯金企画をはじめ他部署とのつながりの強化に努めている。つながることで活動の幅が広がり、メンバーが他部署の利用者と日常場面での関わりが増えてきたことでスタッフのみでは築くことができなかった関係性を育むことができたと思う。入浴に関しては看護師と協働しながら職員研修を行なうなど、安心、安全な入浴を目指して取り組んでいる。

④ 品質管理

新規の入浴希望者に関して看護師・送迎など諸所の事情でニーズに応えることができなかったと思われる。また職員間の情報共有の不足から家族のクレームにつながるがあった。

2. 2016 年度の計画

① 予算案のポイント

| 費目 | 予算(単位:千円) | 前年比 | 算出根拠・購入物品など |
|----|-----------|-----|---|
| 収入 | 82,633 | ↗ | COCORO に 6 名移動(完全移動は 4 名)予定であるが新規利用者 2 名(両名とも区分 5)と既存利用者の日数加増で収入は横ばいの見込み。 |
| 支出 | 63,816 | ↗ | 構造化の一環でさくら班スペースにパーテーション・壁などの改修を次年度は予定している。現場職員増だが、管理者の交代で人件費も大きな変動なし |

② 主課題

- 稼働率の回復 ●2015 年度に推進したつながり作りの継続 ●チームビルディング
- 構造化の推進(フロア改修を予定) ●高齢世帯へのチームアプローチ

③ 年間事業計画（予定）

| | | | |
|------|-----------|------|----------------|
| 4 月 | 花見 | 5 月 | 春外出 |
| 6 月 | BBQ | 7 月 | フロア改修(予定) |
| 8 月 | 盆休み | 9 月 | 懇談会 |
| 10 月 | 懇談会・秋外出 | 11 月 | さくら班 10 周年イベント |
| 12 月 | クリスマスイベント | 1 月 | 正月イベント |
| 2 月 | 家族会・懇談会 | 3 月 | 懇談会 |

1. 2015 年度の総括

① 収支状況（表中の単位：千円）

| 決算見込み | | 予算比 (%) | 前年比 |
|--------|--------|---------|-----|
| 収入 | 32,307 | 118.2 | ↗ |
| 支出 | 23,789 | 110.9 | ↗ |
| 経常収支差額 | 8,518 | 144.5 | ↑ |

評価：新規メンバーさんが2名増え、休みがちであった数名のメンバーさんも日々の努力により徐々に通所が安定しはじめた事もあり全体的な稼働率が前年度に比べ上昇しました。

2015 年度の 1 枚



らぁ祭コラボ営業「大前田」前田様×「かしや」柏原様×「べらしお中百舌鳥本店」日比野社長×「べらしお福祉店」=絆つけそば

② 職員配置と研修（職員数は 2016 年 1 月現在）

契約社員の退職など十分な職員配置ではない中、喫茶店のモーニング営業やらーめん店は毎月渡る大規模イベント出店や他団体との4ヶ月に渡る合同イベント参加など精力的に店舗運営を行いました。店舗の売上も昨年度を超え、過去最高記録を更新、工賃も大幅に向上致しました。

③ 事業内容

喫茶店はモーニング営業の常連様が増え、メンバー様考案による限定メニューも多数提供、らーめん店に関しては一般社団法人らぁ祭による大阪らぁ祭 2015 に参加、4ヶ月間の開催期間で計867名の来客を記録（前年比およそ1.5倍増）。加えて各種媒体より取材や出演の依頼もあり、法人PRにも大きく繋がりました。また他職種との連携も昨年より更に増え、多くの利用者さんの就労意欲向上にも繋がりました。また来季からの新規事業（プリント事業）として T シャツ関連プリント機器の購入及び専任業者による作業レクチャーの確保等行い準備を進めました。

④ 品質管理

2. 2016 年度の計画

① 予算案のポイント

| 費目 | 予算(単位:千円) | 前年比 | 算出根拠・購入物品など |
|----|-----------|-----|------------------------------|
| 収入 | 33,253 | ⇒ | |
| 支出 | 24,654 | | 大型厨房機器（茹麺機 40 万・給湯器 30 万）修理等 |

② 主課題

～地域に愛されるお店を目指します～地域住民の皆様にフード班の事業をより知って頂くために営業を行います。ボランティアさんの受け入れにも取り掛かります。

③ 年間事業計画（予定）

| | | | |
|-----|-------------|------|-----------------|
| 4 月 | イベント出店 | 10 月 | イベント出店 |
| 5 月 | イベント出店 | 11 月 | イベント出店 |
| 6 月 | イベント出店 | 12 月 | イベント出店・大掃除・外食研修 |
| 7 月 | イベント出店 | 1 月 | イベント出店 |
| 8 月 | イベント出店・外食研修 | 2 月 | イベント出店 |
| 9 月 | イベント出店 | 3 月 | イベント出店 |

1. 2015 年度の総括

① 収支状況（表中の単位：千円）

| 決算見込み | | 予算比 (%) | 前年比 |
|--------|--------|---------|-----|
| 収入 | 60,810 | 112.2 | ↗ |
| 支出 | 43,571 | 101.1 | → |
| 経常収支差額 | 17,239 | 151.8 | ↗ |

評価：

新規メンバーが2名追加利用。定例外のイベント(夏・秋・冬)を実施。多数のメンバー参加につながり、収入が大幅にUP。支出面はプログラムと照らし合わせて購入。横ばいで収まる。



* NewYork 出展作品

② 職員配置と研修（職員数は2016年1月現在）

●正職員6名(サビ管1名含む)、非常勤2名(6月に1名退職)の体制。約半年間1名減の体制は個々の連携の意識が高まり、全体的な質の底上げにつながるものの、業務過多で体調不良に陥る職員も数名存在してしまう。その解消として2月に計4名非常勤を採用。次年度のCOCOROも視野に入れた採用のため、非常勤の質の向上が課題。

●部内研修では障がい理解、疾患の知識、研修の伝達など知識の幅が広がる。また、職員個々の言語化の体得を目指す。部内研修そのものが定着しておらず受動的なのが課題。さらに、非常勤を含めた研修が未実施である。ケースの共有化を含めた全体会議の必要性を感じる。

③ 事業内容

全体として、「モノ作り」を中心にプログラムを運営。夏のギャラリーを中心に、障がい者アート展入選、カフェの新メニュー開発、受注作業などコンスタントに売上UPを図ることができる。プログラムの固定化はメンバーにとっても目標が明確となり、モノ作りへの意欲へとつながっていると思われる。一方、少数のメンバーがそこでスポットライトを浴びづらいうのも課題となっている。アンケートでもニーズで高いのはアウトティングである。メンバー個々のニーズを充実し、モノ作りにも意欲的に参加できるように支援していきたい。

④ 品質管理

●通常プログラムに対して集団を意識した取り組みが多かった。ようやく定員に近づいたことで、メンバー個々のニーズの整理を図る。重度の障がいメンバーからのアウトティングへの希望が高く、プログラムにウォーキング、地域清掃など実施できるようにスタッフ体制など優先して取り組む。活動の定着化がメンバーにとって精神的な安定につながる事ができる。

●将来に不安を抱えるご家族の声を発信できる機会として、家族会で他事業所見学とご家族同士、スタッフとの交流会を実施。ショートステイの利用希望や家族同士が顔の見える関係性につながる事ができる。

2. 2016年度の計画

① 予算案のポイント

| 費目 | 予算(単位:千円) | 前年比 | 算出根拠・購入物品など |
|----|-----------|-----------|--|
| 収入 | 58,005 | 95% ↓ | 【増収】 新規メンバー1名増加。 既存メンバー1名の利用日数の増加(1日→3日)。 定例外通所の企画(年4回)400,000円 送迎加算(I)1,750,000円 【減収】 既存メンバー2名COCORO異動。▲2,700,000円 2015年度非常勤職員1名退職となったため、人員配置加算棄却。 |
| 支出 | 42,267 | 100% ⇒ | さをり機100,000円 画材道具30,000円 額50,000円 るーぶカフェ看板13,000円 雑貨材料60,000円 スピーカー(フロア全体)50,000円 |

② 主課題

| |
|--|
| <p>●個別ニーズの実践を目指す</p> <p>日頃のメンバーとの関わりを通して“声”を聴いていく。また、その“声”を言語化し、支援計画書で具体化していくために、アセスメントシートに落とし込んでいく。その一連の流れを定着化することで個々のニーズの具現化につなげていく。</p> <p>*アセスメントシートの刷新。メンバー個々の状況、変化に焦点を当てやすいシートにする。</p> <p>●るーぶブランドの形成</p> <p>メンバー商品のブランド力をつけていくために、ロゴを活用し、商品価値を高める。また、スタッフが身に付けて、商品のイメージUPを図る。</p> <p>●将来のイメージをメンバー・ご家族と共有していく</p> <p>サービスの充実、防災の取り組みなど将来起こりうる問題を家族勉強会という形で実施し、スタッフを話し合う機会を設ける。また、家族同士のつながりを作り、孤立防止に務める。</p> |
|--|

③ 年間事業計画(予定)

| | | | |
|----|-----------------------|-----|-------------------------|
| 4月 | お花見、スポセン | 10月 | 障がい者アート展、稲刈り、スポセン |
| 5月 | ギャラリー準備、春の外出、田植え、スポセン | 11月 | 秋の外出(希望別)、障がい者アート展、スポセン |
| 6月 | ギャラリー準備、スポセン | 12月 | 障がい者アート展、クリスマス会 |
| 7月 | ギャラリー準備 | 1月 | 障がい者アート展、初詣 |
| 8月 | るーぶアートギャラリー | 2月 | 家族会 |

1. 2016 年度の計画

① 予算案のポイント

| 費目 | 予算(単位:千円) | 前年比 | 算出根拠・購入物品など |
|----|-----------|-----|--|
| 収入 | 39,113 | | 定員枠 20 名で算出。 送迎加算 (Ⅱ) 550,000 円 福祉専門職配置加算 (Ⅰ) 150,000 円 |
| 支出 | 33,804 | | 外灯設置 (駐輪場付近) 50,000 円 車イス用体重計 100,000 円 介助用リフト 600,000 円 駐車場代 144,000 円 |

② 主課題

- ひなた:「個別支援の追求」多種多様な体験を提供し、メンバーに合ったプログラムを実施。
- つなぐ:「自分たちの班を自分たちで作っていく」メンバー個々の声を大切にし、それを体現できる班作りを目指す。
- 新たな拠点作りとして、ウォーキング、地域清掃などを通して外に出ていく機会を作り、地域との関係性の構築を目指す。
- 医療的ケア、入浴・食事・排泄介助において、看護師と支援員の情報交換を密に図り、メンバーが安心して過ごせる場所を目指す。
- メンバー獲得のために支援学校や相談支援事業所と情報交換を行ない、稼働率 UP を目指す。

③ 年間事業計画 (予定)

| | | | |
|-----|------|------|----------|
| 4 月 | お花見 | 10 月 | スポセン |
| 5 月 | 春の外出 | 11 月 | 秋の外出 |
| 6 月 | スポセン | 12 月 | クリスマス会 |
| 9 月 | 前期懇談 | 1 月 | 初詣 |
| | | 2 月 | 家族会、後期懇談 |